

2022年度 立正大学データサイエンスセンター プロジェクト成果報告書

1. プロジェクト名称 日本の家族構成とその行動分析

2. プロジェクト期間 2021年10月1日～2024年9月30日

3. プロジェクトリーダー

氏名	DSC内職位
白川 清美	研究員

4. プロジェクトメンバー

氏名	DSC内職位	氏名	DSC内職位
武藤 杏里	共同研究員		選択してください
石田 和也	共同研究員		選択してください
野口 康行	共同研究員		選択してください

5. 成果の概要

当該年度に実施したプロジェクトの成果について、その具体的内容、意義、重要性等をできるだけ分かりやすく記述して下さい。

【プロジェクトの成果】

本プロジェクトでは、公的統計データを利用した日本の家族構成やその家族間のインタラクションの分析を実施した。具体的には、国勢調査の調査票情報を利用し、3人以上の子供を持つ世帯に対して、第一子、第二子の性別が、第三子に与える影響についての実証分析や3人以上の子供を持つ要因について独自調査を実施した。また、社会生活基本調査の調査票情報を利用し、主に夫と妻の生活時間（24時間を96分割）の行動を分析し、家族間の関係性を可視化するための現実シミュレーションができるアプリを開発した。さらに、このアプリに改善を加え、生活時間（24時間を96分割）を1分刻みにすることやアバターに喜怒哀楽の表現を可能とする機能を追加した。

次年度は、今年度に続き、アバターなどを使ったバーチャルな環境でのデータ分析やメタバースを利用した分析やデータの収集により、これまでになかった分析手法を試行する予定である。

これらの分析の結果、コロナ禍においてさらに加速している晩婚化・未婚化や合計特殊出生率の低水準の要因分析ができ、改善のための提案を作成することが可能となった。

【意義、重要性等】

国勢調査や社会生活基本調査の調査票情報のビッグデータを利用して、これまでになかった分析やアバターによる可視化を実現し、「Volume」（量）があるデータの有効活用している。

このデータ分析によって、これまでにならなくなっている、または分析に使われていないデータを有効に活用できることにこのプロジェクトを実施する意義や重要性がある。

6. 成果発表

当該年度に発表したプロジェクトの成果（雑誌論文、書籍、学会発表、講演会、研究会、その他）について、その内容を箇条書きで記載して下さい。

学会での発表

- ・我が国の地域別の第三子の性別選好 2022年8月2日（火）2022年度一橋大学経済研究所社会科学統計情報研究センター「匿名データの利用推進」に関する研究会
- ・「世帯属性別夫婦間のインタラクションの可視化 2022年8月2日（火）2022年度一橋大学経済研究所社会科学統計情報研究センター「匿名データの利用推進」に関する研究会
- ・行動シミュレーションシステムによる家族間インタラクションの可視化 2022年9月6日（火）統計関連学会連合大会（オンライン）
- ・日本における第2子までの出生順性別と第3子との関連分析 2022年11月24日（木）2022年共同研究集会「官民オープンデータ利活用の動向及び人材育成の取組」

この成果報告書に記載の内容については、ホームページ等で公開いたします。
成果を公開できない事情がある場合には、その理由を記述して下さい。

※研究成果を公開できない理由